

森に迷った少年を街へと送る途中、大型の淫獣と遭遇したセーラーサターンと少年。

淫獣とは人間の欲望が
具現化した存在であり
特に性欲を司る魔獣とされている

こんな大きい個体
初めて……

いったいどれ程の
欲望を溜め込んでいるの……



ダイチ君

私がここで逃げ出したら
アイツは街の人達を襲うわ
だから私は逃げないわ。

アイツすっごく大きいし
強そうだよ！

でもでも……

僕のおうちで
一緒に隠れようよ！

パパとママに
お願いするから！

ありがとう、ダイチ君

でもね私はセーラー戦士なの。

みんなの為に戦う事が使命なの。
ダイチ君や街のみんなを守る為に
私は戦いたい。





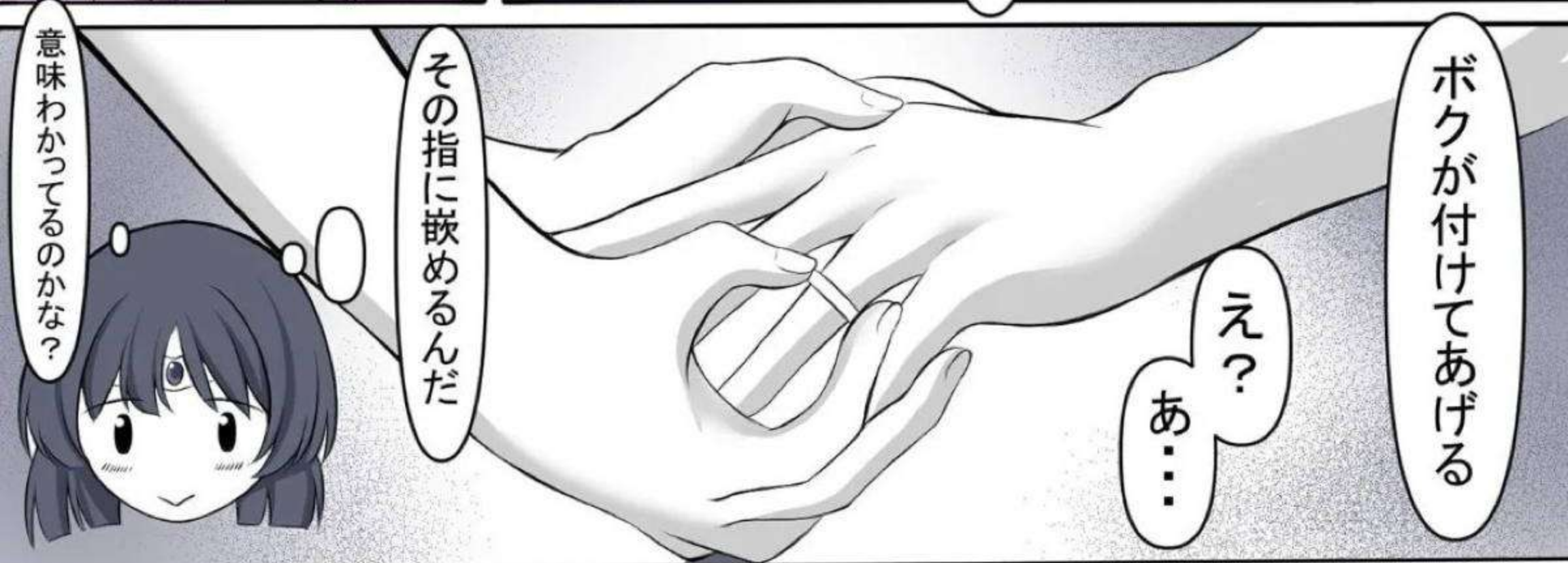
アイツ



うん!

終わったら返すね

それじゃあアイツを
やつつけるまでの間だけ
借りるね



意味わかってるのかな?

その指に嵌めるんだ

ボクが付けてあげる

え?

あ...



.....



ぜったい負けないでね



ダイチ君のおかげで
勇気いっぱい♪

ぜつたいに
負けたりしないわ！
約束する

約束だよ
サターンお姉ちゃん



待ちなさい！

街へは通さないわ

さあ、いくわよ！

ザッ



あ……ぐっ

はっ……

う……ぐっ

はな……し……て

ギッ
ギッ

ギッ
ギッ

サターンの攻撃は人間の性欲を溜め込んだ
巨大な淫獣には効かなかった……
武器を破壊されたサターンは
淫獣に抱まれ抱き締められる様に締め上げられ
悲痛なうめき声を上げていた。

か……はっ

サターンお姉ちゃん！





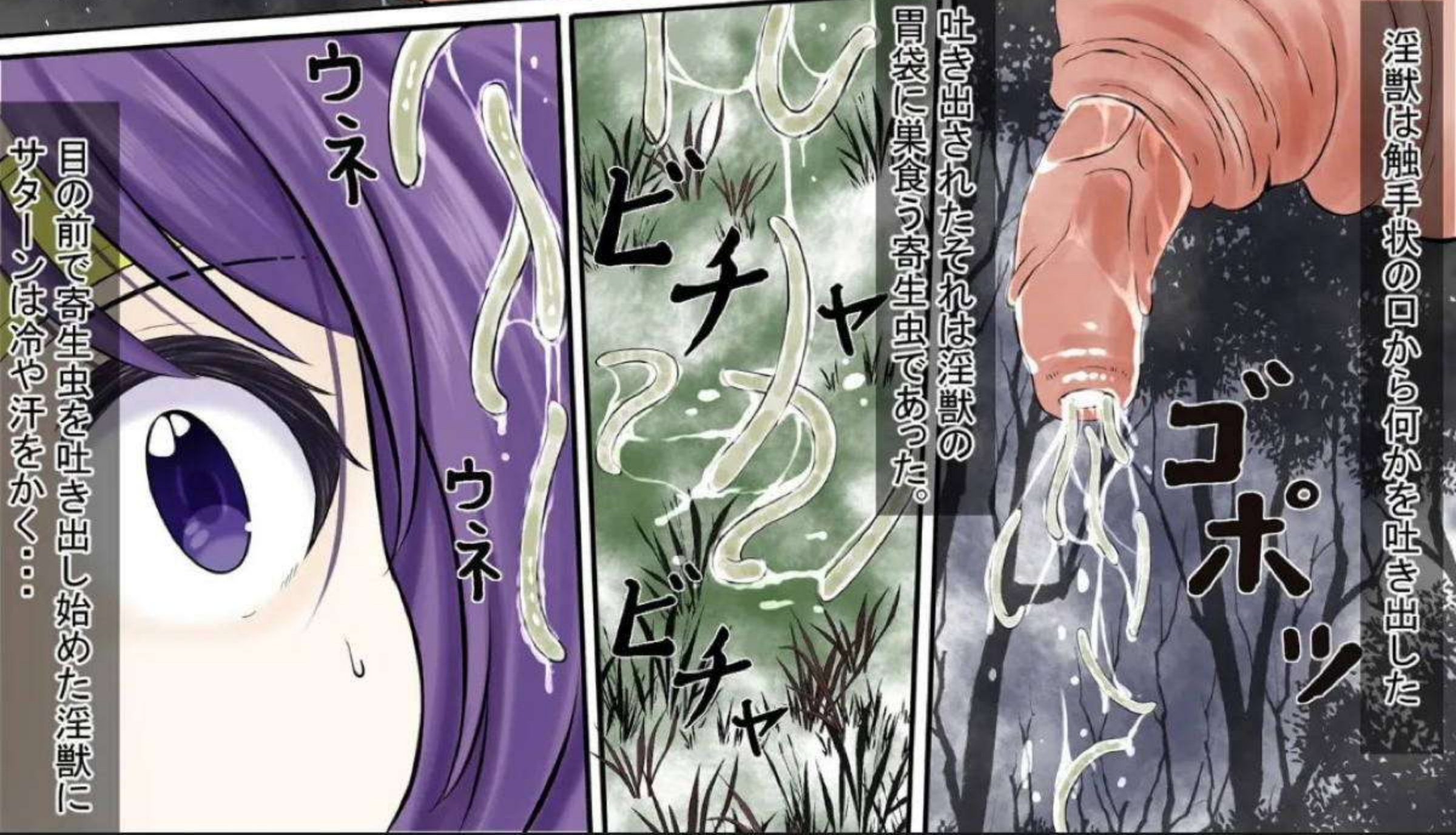
サターン！

来ちゃ・ダメ

逃げ……て

ダ・イチ君

淫獣に拘束されながらも少年に逃げるように促すサターン
淫獣の太い両腕の締め付けは弱まる気配はなく
むしろ強く身体を引き寄せてくる。



淫獣は触手状の口から何かを吐き出した

ゴポツ

吐き出されたそれは淫獣の胃袋に巣食う寄生虫であった。



ビチャ
ビチャ

ウネ

ウネ

目の前で寄生虫を吐き出し始めた淫獣にサターンは冷や汗をかく……

グポッ

淫獣は寄生虫を吐き出す触手状の口をそのままサターンの口へ挿入し、口腔内で寄生虫を吐き出す。粘液と共に寄生虫が喉を通ってサターンの体内へ流れ込む……

ラーメンを噛まずに飲み込む様な感覚を受けるサターン

バタジ
バタジ

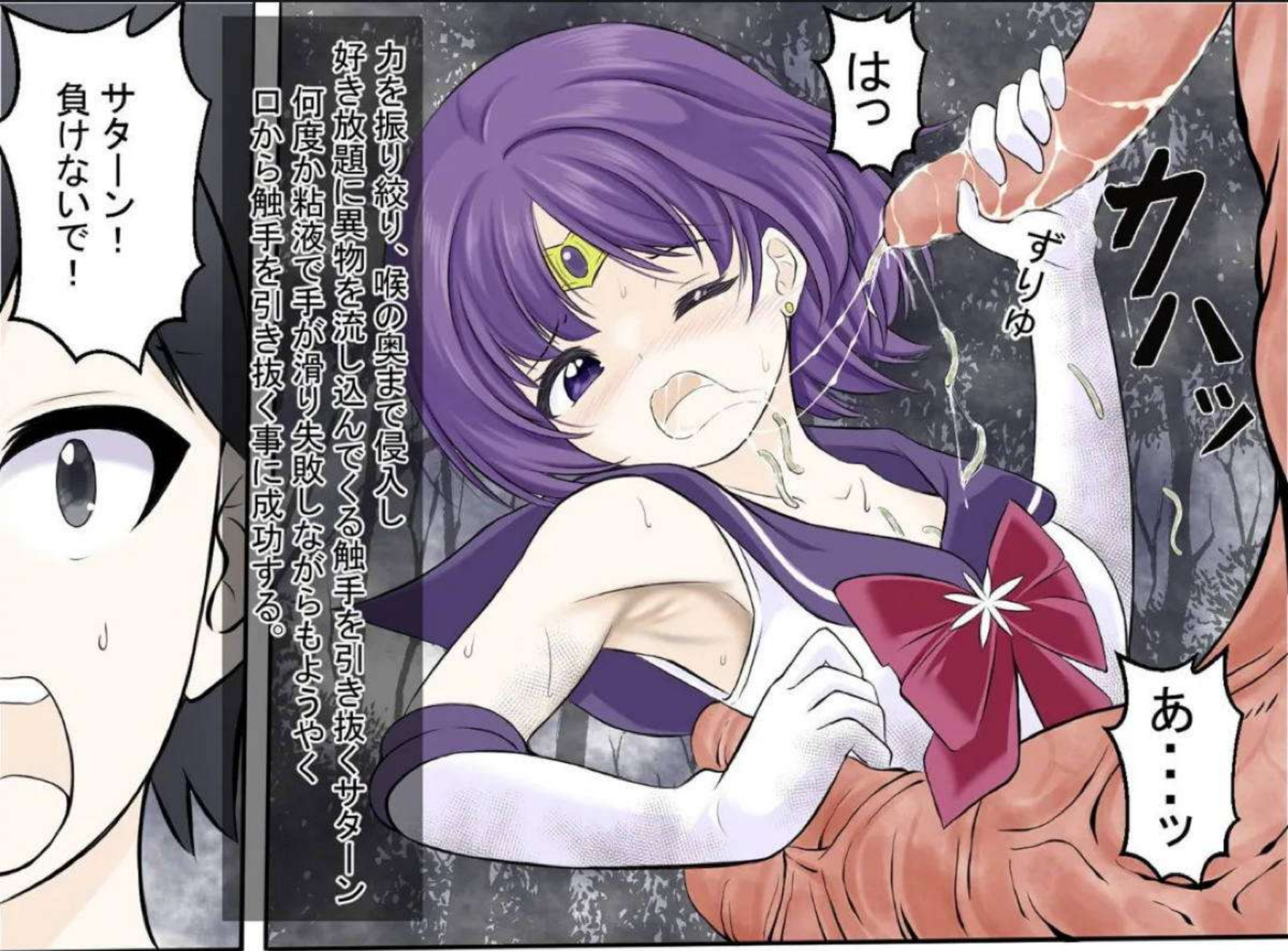
ドクン

ドクン

ドクン



淫獣と抱き合う格好にされている為、体内に注入される異物を拒む事が出来ずもがいている間にも少女の胃袋は線虫で満たされてゆく……



サターン！
負けないで！

力を振り絞り、喉の奥まで侵入し
好き放題に異物を流し込んでくる触手を引き抜くサターン
何度か粘液で手が滑り失敗しながらもようやく
口から触手を引き抜く事に成功する。

はっ

ずりぬ

カハッ

あ……ッ



体内の寄生虫がセーラー戦士の力の源であるエナジーを
蝕み奪っていたのだ……。
寄生された状態のセーラー戦士はもはや一般人と
大差ない状態である。

淫獣の拘束から解放されたが全身に力が入らず
地面に臥せってむせ返る事しか出来ないサターン……

グホッ

ケホッ

ケホッ

ちよ……

ちよっと！なににする気？！

グイッ

力を失った只の少女に
成り果てたサターンの身体を
抱え上げる淫獣

ビッビッ

そして生殖行為を行う時にしか出さない
肉棒を肉膜を破り露出させ行為に及ぶ準備をする

ま、待って！

そんな……

まさか……

わたしにするつもり？

ち……ちめて

そんな大きいの……

入んないわ

ギチ
ギチ

ああああ！

ズ
プ
プ
プ

はっ

ズ
ズ

淫獣は抵抗の出来ない少女の懇願を無視して
勃起した肉棒を突き入れた……

人間の女性の中でも小柄で華奢な方であるサターンの身体に
大型の淫獣の肉棒は凶悪な太さであり
サターンは自分の股が裂ける様な感覚に陥った。

正義の心を胸に戦いを挑んだ相手に負けただけでなく性欲の発散に身体を使われてしまっている……年頃のサターンも自慰の経験はあった。今の淫獣にとって自分はソレの道具なのだと思った。

悔しさや恥ずかしさ、そういった感情も淫獣に腰を打ち付けられるたびに薄くなってゆく……

あ……く

ハッ

んんっ

ギニ

ギニ

ズニ

ズニ

ズプ
ズッ

グツ

パ
パ
パ



サターンン……

お姉ちゃん

お願い!!

ダ……イチ君……

見ないで……

あああああ!!

ハッ

あ……っ

ズン

パニ

ズン

パニ

ズ

ニ

ズ

ニ

ズ
ン
ブ
ン



ズジ

ズ...リュ

ニチャ

ドブ...

ゴポッ

淫獣との性行為はどんなに拒絶しても
快楽を感じてしまう特殊な性質があった。
サターンは倒すべき敵と同時にイッてしまった。

守るべき街の人や
ダイチ少年の姿が
脳裏によぎったがすぐに
快楽の余韻に
かき消されるのであった。

破瓜の鈍痛と注がれた精液の生温かさを
下腹部に感じながらサターンは気を失った...

そして...

ん

ザ

い



太い肉棒によって処女を奪われたばかりの秘部に別の性器が快楽を貪っていた。

あ…

あが…

頭部を淫獣の「種」に寄生され性欲を増幅、暴走させられた少年が交尾する獣の様に腰を振っていた…。



気を失っているサターンをレイプし何度も膣内に射精していた…。少年の初めての射精、精通もサターンの膣内で果たしていた。

無事を祈って応援してくれていた相手にもレイプされた少女の薬指には指輪が美しく光っていた。

終